

第1回 テスト問題

古典

問題作成責任者：はやお(国語科・京大ポブキャンパス所属)

【問題について】

解答時間・六〇分

満点・一〇〇点(古文六〇点・漢文四〇点)

大問数・四(選択問題・なし)

解答方式・選択問題／記述問題

ページ数・10ページ

【解答上の注意】

- 1 試験が始まるまでは問題用紙を開けてはいけません。
- 2 解答は特に指定のない限り楷書ではっきりと書くこと。

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～問9)に答えよ。(配点35点)

昔、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとにいでて遊びけるを、おとなになりければ、男も女も恥ぢかはしてありけれど、男は「この女をこそ得 **x**(む)。」と思ふ。女は「この男を。」と思ひつつ、**(1)**さて、親のあはすれども聞かてなむありける。

この隣の男のもとより、かくなむ、

筒井筒井筒にかけし まろがたけ過ぎにけらしな妹見ざるまに

女、返し、

**A** くらべこし振り分け髪も肩すぎぬ 君ならずしてたれかあぐべき

などと言ひ言ひて、つひに **a**本意のごとくあひにけり。

さて、年ごろ 経るほどに、女、親なく、頼りなくなるままに、「**(2)**もろともにいふかひなくてあらむやは。」とて、河内の国、高安の郡に、**(1)**行き通ふ所いできにけり。さりけれど、このもとの女、「あし。」と思へる **b**気色もなく、いだしやりければ、男、「こと心ありてかかるにやあらむ。」と **(3)**思ひ疑ひて、前栽の中に隠れあて、河内へ **y**(いぬ)顔にて見れば、この女、いとよう化粧じて、うちながめて、

**B** 風吹けば沖つ白波 たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ

とよみけるを聞きて、限りなく **c**かなしと思ひて、河内へもいかずなりにけり。

まれまれかの高安に来て見れば、初めこそ **d**心にくくもつくりけれ、今はうちとけて、手づから飯匙とりて、**(2)**筒子のうつはものに盛

りけるを見て、心憂がりて、行かずなりにけり。さり **z**(けり)ば、かの女、大和の方を見やりて、

君があたり見つつを居らむ生駒山雲な隠しそ雨は降るとも

と言ひて見いだすに、からうじて大和人、「来む。」と言へり。喜びて待つに、たびたび過ぎぬれば、

君来むといひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつつぞ経る

と言ひけれど、男住まずなりにけり。

(『伊勢物語』筒井筒)

問1 i 点線部 a・b の古語の読みを書け。(各1点×2・単語)

ii 点線部 a～d の古語の文中での意味を、それぞれ現代語で書け。(各1点×4・単語)

問2 二重傍線部①・②の動作の主語を、次の選択肢①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。(各1点×2・本文理解)

〔選択肢〕①男 ②幼馴染の女 ③高安の女 ④幼馴染の女の親 ⑤作者

問3 波線部 x～z の( )の中の動詞・助動詞は終止形で書いてある。これらをそれぞれ適切な形に活用させて書け。ただし、活用させる必要のない時はそのままでよい。(各1点×3・文法)

問4 傍線部(1)さて、親のあはずれども聞かだむありける」とあるが、それはなぜか。女の心情に着目しながらその理由を答えよ。(3点・理由)

問5 傍線部(2)「もろともにいふかひなくてあらむやは」を、主語を補いながら分かりやすく現代語訳せよ。(3点・現代語訳)

問6 傍線部(3)「思ひ疑ひて」とあるが、それはなぜか。女の行動と、男が疑った内容に注目しながらその理由を答えよ。(3点・理由)



(下書き用紙)問題は次のページに続く。

## 第2問 次の文章を読んで、後の問い(問1～問6)に答えよ。(配点25点)

おほかた、この所に住み始めし時は、(1)あからさまと思ひしかども、今すでに、五年を経たり。仮の庵もやや a ふるさととなりて、軒に朽ち葉深く、土居にこけむせり。おのづから、ことのたよりに都を聞けば、この山にこもりゐてのち、(2)やむごとなき人の隠れたまへるもあまた聞こゆ。(3)まして、その数ならぬたぐひ、尽くしてこれを知るべからず。たびたびの炎上に滅びたる家、またいくそばくぞ。ただ仮の庵のみ、のどけくして恐れなし。 b ほどせばしといへども、夜臥す床あり、昼ゐる座あり。一身を宿すに不足なし。かむなは小さき貝を好む。これ身知れるによりて w なり。みさごは荒磯にゐる。すなはち人を恐るるがゆゑ x なり。われまた (4)かくのごとし。身を知り、世を知れば、願はず、わしらず。ただ静かなるを望みとし、憂へなきを楽しみとす。

すべて世の人の住みかを造る習ひ、必ずしも、身のためにせず。あるいは妻子・眷属のために造り、あるいは親昵・朋友のために造る。あるいは主君・師匠、および財宝・牛馬のためにさへこれを造る。われ、今、身のために結べり。人のために造らず。 c ゆゑいかんとなれば、今の世の習ひ、この身のありさま、伴ふべき人もなく、頼むべき奴もなし。(5)たとひ広く造れりとも、たれを宿し、たれをか掘ゑん。

それ、人の友とあるものは、富めるをたふとみ、ねむごろなるを先とす。必ずしも、情けあると、すなほ y なるとをば愛せず。ただ、糸竹・花月を友とせんにはしかじ。人の奴たる者は、賞罰はなはだしく、恩顧厚きを先とす。さらに、はぐくみあはれむと、安く静か

z なるとをば願はず。ただ、わが身を奴婢とするにはしかず。



第3問 次の文章を読んで、後の問い(問1～問6)に答えよ。(配点30点)

昔者楚共王与二晋厲公一戰ニ於鄢陵一。楚師敗而共王傷ニ

其目一。酣戰之時、司馬子反渴而求レ飲。豎穀陽操ニ

觴酒一而進レ之。子反曰、「嘻、退、酒也。」豎穀陽曰、

「(1)非レ酒也。」子反受而飲レ之。子反之a為レ人也嗜レ酒、而

甘レ之弗レ能レ絶ニ於口一而醉。戰既罷。共王欲ニ復戰一、

(3)令人召司馬子反。司馬子反(4)辞以ニ心疾一。共王駕而

自往、入ニ其幄中一、聞ニ酒臭一而還。曰、「今日之戰、不

穀親傷。所レ恃者司馬也。而司馬又醉如レ此。是亡ニ楚国之

b 社稷一而不レ恤ニ吾衆一也。不穀無ニ復戰一矣。」於レ是還レ

師而去、斬ニ司馬子反一以為ニ大戮一。故豎穀陽之進レ酒、

不<sup>テ</sup>以<sup>ニ</sup>讎<sup>ニアラ</sup>子<sup>ニ</sup>反<sup>一</sup>也、其心忠<sup>ノ</sup>愛<sup>シ</sup>之<sup>ヲ</sup>、而<sup>モ</sup>適<sup>タ</sup>足<sup>ル</sup>以<sup>ニ</sup>殺<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。

故<sup>ニ</sup>曰<sup>ハク</sup>、「行<sup>ニ</sup>小忠<sup>ヲ</sup>、大忠之賊也。」

(注) 1 戦いの最中 2 軍事担当の職名 3 主人の雑用係 4 盃に入った酒 5 乗り物に乗る 6 陣に張ったテントの中 7 君主の用いる一人称 8 最も重い死刑

(『韓非子』)

問1 波線部 a・b の読みと文中での意味を、それぞれ書け。(各1点×4・知識)

問2 波線部(1)「非<sup>レ</sup>酒也」とあるが、豎穀陽が嘘をついてまで子反に酒を指し出したのはなぜか。理由を分かりやすく書け。(3点・理由)

問3 波線部(2)「甘<sup>レ</sup>之弗<sup>レ</sup>能<sup>レ</sup>絶<sup>ニ</sup>於<sup>一</sup>口<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>醉<sup>一</sup>」(4)「辞以<sup>ニ</sup>心疾<sup>一</sup>」をそれぞれ分かりやすく現代語訳せよ。(各3点×2・現代語訳)

問4 波線部(3)「令人召司馬子反」について、

- i 訓点を付けよ。(3点・訓読／書き下し)
- ii 書き下し文にせよ。(2点・訓読／書き下し)
- iii 分かりやすく現代語訳せよ。(3点・現代語訳)

問5 二重波線部「如<sup>レ</sup>此」とはどういう事か。指示語の表す内容を明記し、分かりやすく説明せよ。(4点・本文理解)

問6 筆者は本文を通してどういうことを主張しているか。本文中の例と、最後の文「行<sup>ニ</sup>小忠<sup>一</sup>、大忠之賊也」の内容とを対比して分かりやすく説明せよ。(5点・本文理解)

